

成犬譲渡促進マニュアル

令和 3 年 6 月

沖縄県

目次

はじめに.....	1
成犬譲渡促進プログラムに関するフローチャート.....	3
各主体の役割・担当.....	4
プログラム内容詳細.....	5
1. プログラム実施施設募集及び内容の周知広報.....	5
2. トレーナーの選定及びプログラム実施依頼.....	5
3. 譲渡候補犬の選定.....	5
4. 対象児童・生徒の選定.....	7
5. 事前説明会の実施.....	7
6. トレーニングについて.....	7
7. 譲渡先募集について.....	7
8. 譲渡希望申請及び譲渡者決定について.....	8
9. 譲渡後について.....	8

資料

- 別紙1 トレーニングプログラム
- 別紙2 トレーニング状況報告書
- 別紙3 犬の訓練に関するアンケート（児童・生徒用）

- 様式1 飼養者譲渡申請書
- 様式2-1 誓約書
- 譲渡前環境調査表
- 様式3-1 成犬譲渡促進プログラム応募申請書
- 様式3-2 成犬譲渡促進プログラムに関する連携協定書
- 様式4-1 譲渡確認書
- 様式4-2 譲渡申込書
- 様式4-3 譲渡前環境調査表

はじめに

沖縄県においては、令和3年2月に「沖縄県動物愛護管理推進計画」の見直しが行われ、「～人と動物が共生できる沖縄県をめざして～」の基本理念のもと様々な取組が行われている。動物愛護精神の普及啓発活動による飼い主の意識改善や地域との関わりにより収容犬が減少し、殺処分数の減少に寄与していると考えられる。

平成28年度から令和2年度までに実施された成犬譲渡促進事業においては、沖縄県動物愛護管理センター(以下「センター」という。)に収容された成犬の譲渡を促進することで殺処分の低減を図る「成犬譲渡促進プログラム」を有識者や関係者の意見を踏まえて実施し、その内容を県内の児童福祉施設等で活用できるよう、「成犬譲渡促進マニュアル」を作成した。

また、ここでいう「成犬」とは約2歳以上の犬を想定しているが、若年期^{※1}(概ね生後6ヶ月～12ヶ月)までに社会化が不完全で、そのために一般家庭での飼養が困難と考えられる子犬においても、このプログラムにより改善が見込まれる個体の候補として実施することも可能である。

※1 若年期の定義は JAHA(日本動物病院協会)による「家庭犬のしつけ方講座インストラクター養成コース 子犬に関する基礎知識総論」より

成犬譲渡促進プログラムは、家庭犬をしつける際、センター、トレーナー、並びにトレーニング実施先の児童福祉施設等の3者が連携して行うことで、また、譲渡候補犬の命を扱う事業であることを認識することで、次の3つの効果が期待される。

(1) 殺処分数の軽減と成犬譲渡の促進

現状では家庭としての譲渡は難しい人馴れしていない等の収容犬を適切な訓練と人との関りにより、社会復帰ができることを社会に示すことで、「命」を尊重し適正な飼養に対する社会的認識を高める。

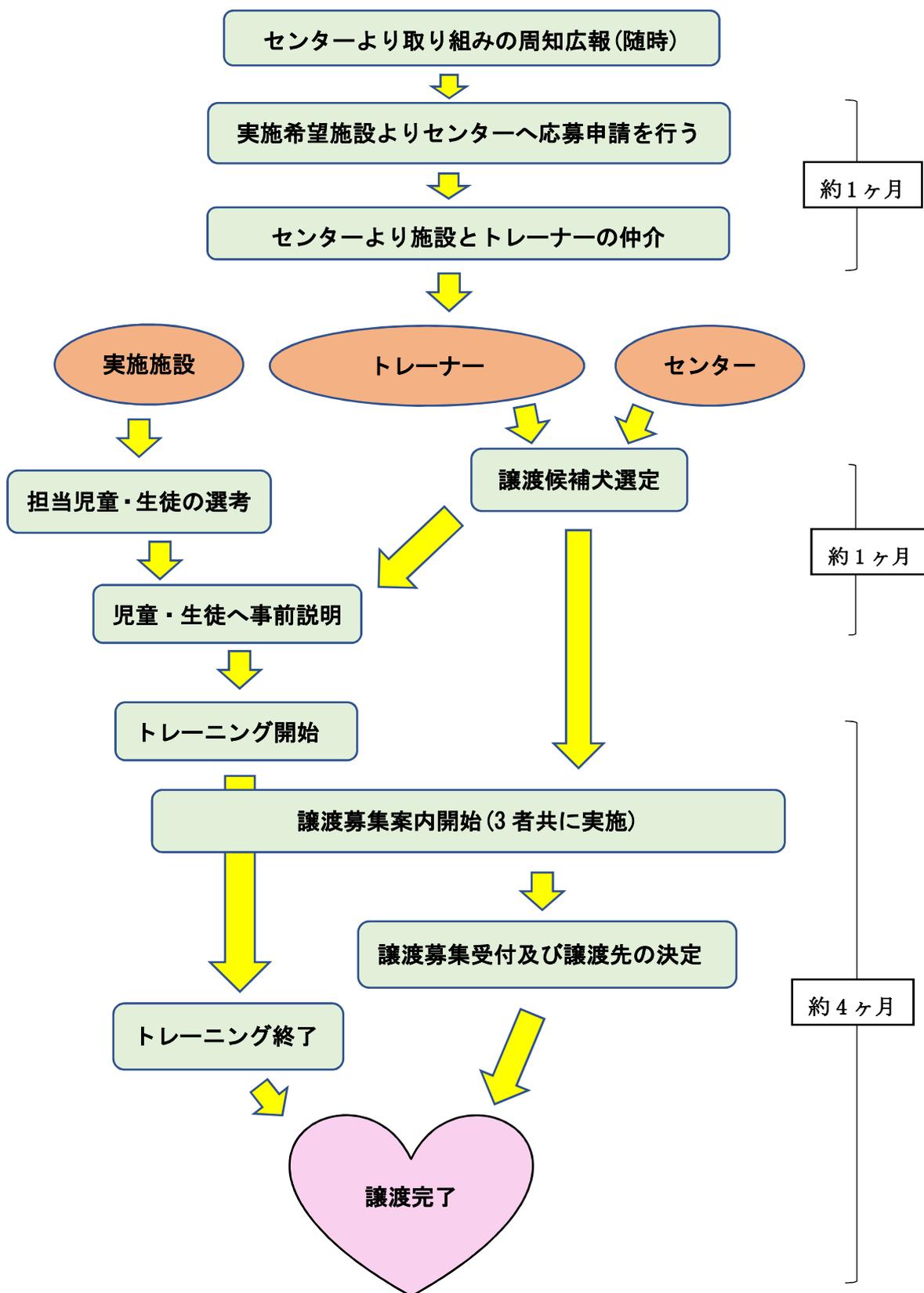
(2) 子どもの情操教育

殺処分の対象となる収容犬の命を救い、社会復帰できる適切な訓練を施し、犬と譲渡先を結ぶ活動を行うことで、①自己肯定感を高め、②犬を含めた“他者”を理解し、共感力やコミュニケーション能力を高める。また、犬の訓練を通して、③責任感や忍耐力を養う。

(3) 地域のつながりを構築

犬の訓練の一環で、地域の集まりへの参加や譲渡先を探し連携を図るなど、犬を通して様々な人や地域との関わりを深めることにより、子どもたちへの地域の理解やサポート体制を構築する。

成犬譲渡促進プログラムに関するフローチャート



各主体の役割・担当

成犬譲渡促進プログラム 業務分担一覧				
	センター	実施施設	トレーナー	備考
1. 準備期間（1～2カ月）（犬飼育：センター又はトレーナー）				
（1）取り組みの周知広報	○			HP等掲載
（2）実施施設の決定	申請受理	応募申請		
（3）トレーナーの選定	候補提示	選定		
トレーナーとの契約	○	○	○	3者協定を結ぶ
（4）事前説明会開催（担当職員向け）	○	○ 会場準備等	○ 訓練について説明	担当施設職員へ流れ・意義について説明
（5）譲渡候補犬の選定、健康チェック	○		○	
（6）ワクチン等接種・避妊去勢手術	○			
（7）環境馴らし			○	
（8）トレーニング担当児童の選抜、場所の確保		○		
（9）顔合わせ等		○	○	トレーナー、譲渡候補犬、担当児童等
（10）HP、SNS等の発信	○	○	○	
（11）訓練前のメディア取材対応	○	○	○	適宜
（12）トレーニングのスケジュール決め		○	○	
2. トレーニング 1st-2nd（1カ月）：基礎・初級トレーニング（犬飼育：トレーナー） 3rd-4th（4～5カ月）：中級・上級トレーニング（犬飼育：施設又はトレーナー）				
（1）開講式・トレーニング運営		○	○※	※トレーニング内容等の記録
（2）HP、SNS等の発信	○	○	○	
（3）譲渡先募集・受付	○		○	譲渡講習会対応
（4）募集ポスター作成				
①ポスター作成		○		
②配布作業	○	○	○	各自対応できる範囲で行う
（5）訓練中メディア取材対応	○	○	○	適宜
（6）譲渡希望者対応				
①ヒヤリング	○			
②書類審査（条件チェック）	○			
③トレーニング見学		○	○	
④センター譲渡講習会参加	○			
3. マッチング				
（1）譲渡先選定				
①書類選考	○			
②環境調査	○		○	
③譲渡候補者決定	○			
（2）HP、SNS等の発信	○	○	○	
4. トライアル期間				
譲渡トライアル	○		○	最低2泊3日実施
5. 譲渡				
（1）譲渡手続き	○			
（2）修了式及び譲渡式開催・運営				
①修了式及び譲渡式開催・運営		○		
②メディア取材対応	○	○	○	適宜
6. 譲渡後調査				
譲渡家族へのアフターフォロー			○	
譲渡後調査	○			
譲渡後の情報を子どもたちと共有	○	○	○	

プログラム内容詳細

1. プログラム実施施設募集及び内容の周知広報

担当：センター

- HP、SNS 等を活用しプログラム実施施設及び協カトレーナーの募集や、プログラム経過の周知広報を行う

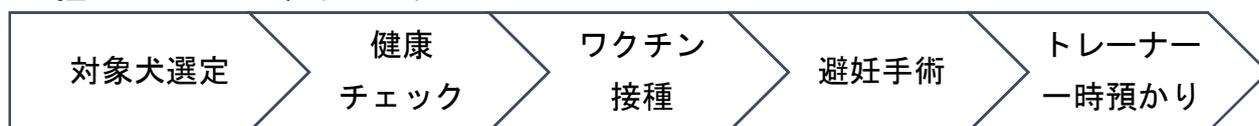
2. トレーナーの選定及びプログラム実施依頼

担当：センター、実施施設、トレーナー（以下、3者という）

- ① 実施施設から応募申請書(様式 3-1)をセンターへ提出する
- ② 本プログラム実施トレーナーは沖縄県内の第一種動物取扱業の訓練業登録から選択※トレーナーから施設側へプログラム実施依頼も可
- ③ 実施施設及びトレーナー決定後、両者間でプログラム実施に係る費用等契約調整
- ④ 3者で連携協定を結ぶ(様式 3-2)

3. 譲渡候補犬の選定

担当：センター、トレーナー



- ① センターにて収容されている成犬のうち適性基準(表 1)や健康状態(表 2)、収容状況等を考慮してセンターとトレーナーにて決定する
※通常の譲渡会等では譲渡に繋げることが難しい課題のある収容犬が望ましい
- ② 譲渡候補犬決定後、センターにてワクチン接種等健康状態の最終確認を行う
- ③ 譲渡候補犬決定後、担当トレーナーにて一時預かりとなる
- ④ 訓練開始後、譲渡候補犬の特性についてトレーナーとセンターで情報を共有する(表 3 を考慮し、別添「トレーニング状況」の作成・共有)

表 1 適性

判定項目	◎適	○やや適	△要注意
健康	異常なし	元気 食欲なし	病気・ケガ (条件付き譲渡)
警戒心	すり寄ってくる	立ち止まるが寄る	逃げる 隠れる
凶暴性	おとなしい	普通	うなる ほえる 咬む

表 2 健康状態の評価

項目	状態
体格	骨格系の異常（骨折・脱臼・先天性異常等）が見られない 著しい削瘦、起立困難、歩行困難が見られない
皮膚・体毛	皮膚炎、脱毛等が見られない
目	伝染性疾患が疑われる症状（目やに、流涙等）が見られない 眼球の異常（白濁・混濁・先天性疾患等）が見られない
耳	外部寄生虫が疑われる著しい汚れが見られない
鼻	伝染性疾患が疑われる症状（鼻汁、くしゃみ等）が見られない
肛門	肛門周辺が汚れていない（下痢、血便、脱肛等がない）

表 3 トレーニングステップにおける適正基準

		適	やや適	不適
社交性	リードを持ち立ったまま犬の背中を3回なでる	喜び 受け入れる	固まる	振り払う・逃げる
	20秒間犬の気を引きながらさわる			
	膝の上のにせる			
人に対する許容性	歯を見る（1回5秒×5回）	楽にさせる	少し抵抗する	抵抗してさせない
	後ろから抱きつく15秒			
	前足を持って立たせる			
興奮性	オモチャで遊ばせる	楽しく遊ぶ 注目する	興味がない 警戒する	唸る、放さない、怒る、吠える
	走る人への反応を見る			
	噛むオモチャ又はジャーキーを与える			
	遊んでいるとき、声をかける			
食物防御反応	食事中に話しかける	受け入れる 変化なし	受け入れる 食べる速度増す	唸る、咬む
	食事中に背中をさわる			
	食事中に犬の頬を押す			
対人警戒反応	敵対的態度で犬に接近する	注目する 擦り寄る	無視する 固まる 怖がる	怒る、吠える、飛びかかる、攻撃する
	友好的態度で犬に接近する			
	他の犬への反応			
	子ども、小動物への反応			

※環境省（平成18年3月）「譲渡支援のためのガイドライン」 成犬譲渡候補犬の選別基準及び判定マニュアル

4. 対象児童・生徒の選定

担当：実施施設

- ① 児童・生徒の課題解決に向けたプランや生活状況等を踏まえ施設側にて選定を行う
- ② 対応する児童・生徒数に決まりはないが、1頭につき児童・生徒1～2名程度が望ましい

5. 事前説明会の実施

担当：3者

- ① 担当施設職員とトレーナーにてプログラム内容やこれからのスケジュール等を対象児童・生徒へ説明会を実施する
- ② 施設職員や対象とならない児童・生徒へもプログラム内容を周知し理解を得る
- ③ 譲渡候補犬も含め顔合わせを行う

6. トレーニングについて

担当：3者

- ① 週2回(1回1時間程度)を4か月程度実施する

※トレーニング内容については別紙1「トレーニングプログラム」を参照

- ② トレーナーは月に1回程度、別紙2「トレーニング状況報告書」を用いてセンターに報告を行う

報告を受けたセンターは実施の継続・中断を検討し、3者にて協議を行う

- ③ トレーニングには必ず施設職員が同席する
- ④ 基本的にトレーナーが譲渡候補犬を施設へ適宜連れてきて対応する「出張型」で行うが、可能であれば、譲渡先での生活を意識した施設内での数日間の預かりを含む「定住型」も検討する
- ⑤ 室内、室外どちらでの実施も可とする

※施設外(公園や公民館等)で実施の場合、その施設管理者へ利用許可の確認を行う

7. 譲渡先募集について

担当：3者

- ① HPやSNSを活用しトレーニングの様子や募集案内を発信する
- ② なるべくセンターの譲渡講習会へ譲渡候補犬を参加させ、譲渡希望に繋げる

8. 譲渡希望申請及び譲渡者決定について

担当：3者

- ① 譲渡希望者はセンターで開催する譲渡講習会への参加を必須とする
- ② 譲渡希望者はセンターへ譲渡確認書(様式4-1)及び譲渡申込書(様式4-2)を提出する
- ③ 譲渡希望者は必ず譲渡候補犬と直接顔合わせを行う
- ④ トライアルを実施し譲渡先と譲渡候補犬の相性も考慮する
※最低でも2泊3日以上(延長可)
- ⑤ 譲渡の決定はセンターの基準に基づき、書類審査・面談を併せて実施及び譲渡前環境調査(様式4-3)を踏まえて決定する
※譲渡希望者は可能な限りトレーニングの見学をする



9. 譲渡後について

担当：3者

- ① トレーナーは譲渡先家族のアフターフォローとして、飼養に関するアドバイス等を実施する
- ② センターは譲渡先へ追跡調査を実施する
- ③ 譲渡後半年以降を目安に担当児童・生徒と譲渡犬の交流会もしくは近況報告等を行うことが望ましい
- ④ トレーニング担当児童・生徒を対象にプログラム実施前と実施後にアンケート(別紙3)を実施し、センターへ報告することが望ましい

※開講式及び修了式は任意での開催とするが、児童・生徒の情操教育を目的とし、スムーズなプログラムの導入や成果の振り返りを考えるとトレーニングの開始と終了にメリハリをつけることが望ましい

～人と動物が共生できる沖縄県をめざして～

沖縄県環境部自然保護課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2

TEL 098-866-2243 FAX 098-866-2855

トレーニングプログラム

段階	内容・備考
ステップ 1	<p>【基礎トレーニング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 開講式の実施 ② 犬の環境慣らし及び、担当する児童・生徒との関係性を構築する ③ 人間社会のルールと安全性を伝える ④ 首輪、リードの慣らし <p>※随時 HP、SNS 等でトレーニングの様子を発信</p>
ステップ 2	<p>【初級トレーニング】</p> <p>基本動作 7 項目のトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ① トイレのしつけ ② 定位置（ハウス） ③ 座ること（おすわり） ④ 伏せること（伏せ） ⑤ 歩行訓練 ⑥ 待つこと（まで） ⑦ 呼び戻し（おいで） <p>※譲渡募集案内の作成及び案内開始 ※譲渡希望者へ随時トレーニング見学を実施する</p>
ステップ 3	<p>【中級トレーニング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 環境慣らし：リードをつけて、自然に連れ歩いて落ち着かせ、環境に慣らしていく ② 信頼関係づくり：おやつを使いながら、安心安全を伝え、犬との親和を図り、信頼関係を構築してゆく ③ 慣れ具合を考慮しつつ、基本動作の訓練を進める
ステップ 4	<p>【上級トレーニング】</p> <p>継続的に基本動作を進めながら、譲渡へ向けた総合的な育成を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 公園や公道など人や犬などの交通量が多い場所でも落ち着いて行動がとれるように敷地外での実践的なトレーニングを行う ② 地域のイベントや祭等に連れていき、地域との交流の場をつくる ③ 譲渡決定者へ譲渡候補犬への接し方や指示の出し方等の引継ぎを行う ④ 修了式・譲渡式の準備及び開催

※必ずしもすべてのプログラムを完了する必要はありません。あくまでも基礎トレーニングの目安となっています。最終的に適切な譲渡先へ繋ぐことが目的です。

トレーニング状況報告書

作成日 年 月 日

トレーナー名：

トレーニング ステップ	基礎・初級・中級・上級(いずれかに○)
トレーニング 内容	
譲渡候補犬 状況	
備考	

犬の訓練に関するアンケート

名前

①すごくそう思う～④ぜんぜんそう思わない
で質問に答えて○をつけてください
(裏面もあります)。

そ
う
思
う
す
ご
く
ま
あ
ま
あ
そ
う
思
わ
な
い
あ
ま
り
そ
う
思
わ
な
い
ぜ
ん
ぜ
ん
そ
う
思
わ
な
い

1	犬の訓練をするには責任感が必要だと思う。	1 2 3 4 └──────────┘
2	犬のフンのかたづけはしたくない。	1 2 3 4 └──────────┘
3	いそがしいときに犬の世話をするのは面倒だ。	1 2 3 4 └──────────┘
4	犬と関わることは、人と関わることと同じだと思う。	1 2 3 4 └──────────┘
5	犬の訓練をやりとげたら、満足できると思う。	1 2 3 4 └──────────┘
6	犬が自分の言うことをきかないと腹が立つ。	1 2 3 4 └──────────┘
7	犬の訓練をすることで忍耐力 (つらいことに耐える力) がつくと思う。	1 2 3 4 └──────────┘
8	みんなから頼りにされるようにがんばりたい。	1 2 3 4 └──────────┘
9	もっと自分に自信がもてるようになりたい。	1 2 3 4 └──────────┘
10	みんなで力を合わせてものごと に取り組むことができる。	1 2 3 4 └──────────┘
11	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる。	1 2 3 4 └──────────┘

ぜんぜん
 そう思わない
 あまり
 そう思わない
 まあまあ
 そう思う
 すごく
 そう思う

12	自分にはいろいろなよいところがある。	1 2 3 4 └──────────┘
13	人の役に立てることはうれしい。	1 2 3 4 └──────────┘
14	相手に自分の気持ちが伝わらないとイライラする。	1 2 3 4 └──────────┘
15	自分には、自慢できるところがあまりない。	1 2 3 4 └──────────┘
16	相手が何を考えているか、表情などからわかる。	1 2 3 4 └──────────┘
17	困っている人がいたら助けてあげたい。	1 2 3 4 └──────────┘
18	自分はダメな子だと思ることがよくある。	1 2 3 4 └──────────┘
19	お年寄りや体の不自由な人など、自分とはちがう人たちのことを知りたい。	1 2 3 4 └──────────┘
20	今回の犬の訓練について思うことを自由に書いてください。	